

「あとがき」が「編集者の独り言」に変わってから初めての執筆である。いつも「あとがき」ということを無視して、「独り言」を書いていた気がするので、この変化を推し進めてしまった一人として複雑な思いがある。「変化」というと、年齢からかもしれないが、最近、老いを感じる事が多くなり、近頃では、それに加えて、社会の変化も強く感じる事が多い。

職場（大学）では、数年前に新調した空調機（日本製）が故障し、夏真っ盛りの期間に1ヵ月近くエアコンなしで過ごすことを強いられた（以前だと、新品が故障することも少なかったし、あったとしてももっと早く修理が完了した）。また、ハイテク化の結果、故障が多くなった側面が大きいと思うが、新調した装置の不具合も多くなった。空調機の故障は異常気象の影響もありそうだが、修理期間がこれほど長くなるのは、少なからず、働き手が減少していることや、働き方改革の影響であろう。受け入れざるを得ないことなのかもしれない。

大学での研究活動に関することだと、学生さんの就職活動も大きく変わった。数年前まで、大学院生は修士1年生の冬くらいから本格的に活動していたのが、今年度からは、修士1年生の夏のインターンが就職活

動に組み入れられたらしく（少なくとも学生さんはそう感じている）、大学院の入学式が終わるとともに就職活動を開始していて、いつ研究・教育活動を行うのか……という状況だ。また、大学の研究者は若い世代から敬遠されるようになったとも聞く。おそらく、後年に振り返ったとき、大学での研究活動は、今はまさに激動の年なのかもしれない。自分たちは、どのように「変化」に対処し、（必要ならば）どう「声」を上げればいいのか。

本号では「支部発 話題欄」の特集があり、各支部の先生方が各分野の素晴らしい研究を取り上げている。このような多くの革新的な研究の積み重ねが、今、そして未来の学問を形作っていくことになる。これをどうやって次世代につないでいくのか。研究者の端くれとして、自分も研究での「革新」を目指すことは当然だが、この激動(?)の時代の変化にどのような対処をし、次の時代に「学問」をつないでいくのかも考えるべき年代になってきたのかもしれない。まだまだ未熟者である自分にできることは少ないのだが、そんな自分でも、何かできることがあり、また、やるべきことがあるのではないか、と感じている。（三宅亮介）

カラー写真ご提供のお願い

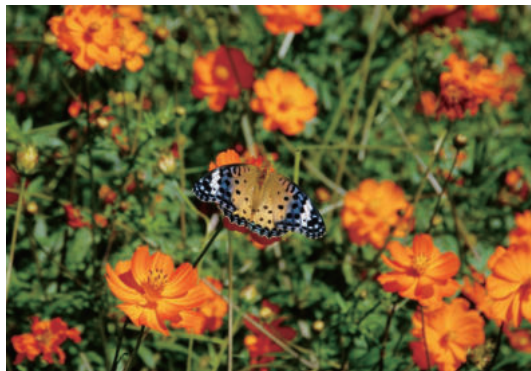
化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



ツマグロヒョウモン 務台 潔